

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	松江工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
本科	機械工学科	夜・通信		10	14	24	7	
	電気情報工学科	夜・通信		8	32	40	7	
	電子制御工学科	夜・通信		10	6	16	7	
	情報工学科	夜・通信		10	35	45	7	
	環境・建設工学科	夜・通信		10	36	46	7	
専攻科	生産・建設システム工学専攻	夜・通信		9	6	15	7	
	電子情報システム工学専攻	夜・通信			0	9	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

高専 Web シラバス*の各学科の「本年度の開講科目一覧」ページに掲載済み https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=31&lang=ja
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	松江工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2024 年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学理事・ 副学長	2020年4月 1日～2024 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2024 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	松江工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本校では、教務委員会及び授業合同ワーキンググループで確認の上、令和5年度のシラバス作成、公表を下記の日程で実施した。</p> <p>【令和5年度授業計画の作成公表スケジュール】</p> <p>授業担当教員、教室等を記した年間授業計画書の作成・提出：R05年1月20日(金)</p> <p>シラバス作成、Webシラバスシステムへの入力：R05年1月31日(火)</p> <p>シラバス公表：R05年4月3日(月)(高専機構本部Webシラバス公開)</p> <p style="padding-left: 40px;">R05年4月7日(金)(学内独自システムによるシラバス公開)</p> <p>以上の作業によって公表されたシラバスに基づいて、学生は新年度に向けた履修登録をR05年4月7日(金)～24日(月)の期間で行った。なお、本科シラバスは高専機構本部Webシラバスシステム、専攻科シラバスについては学内独自システムによって学外にも公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>http://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=31&lang=ja</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本校では、上記で作成・公表したシラバスに記載した成績評価の方法及び基準によって、科目単位で学生の学修成果を評価している。また、科目単位で厳正かつ適正な評価を実施した上で下記の単位認定</p> <p>本科1～3年生：50点以上の評価で単位認定</p> <p>本科4，5年，専攻科生：60点以上の評価で単位認定</p> <p>を実施し、別途規則で定めた進級要件，卒業要件を適用している。なお，進級及び卒業は3月に進級・卒業認定会議（本科），専攻科委員会（専攻科）の議を経て決定している。</p> <p>一方，本校では全科目で成績評価に使用した評価資料（定期試験，小テスト，レポート，作品，追試験，再評価試験，追認試験等）の80%以上の保管を義務付けており，年に1回成績評価がシラバスに基づいて厳正かつ適正に行われているか，成績評価資料が確実に保管されているかを教員相互によって点検している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校ではGPA評価は導入しておらず，成績は100点満点による評価を実施している。また，科目の単位数の重みづけを行った平均点によってクラス内の席次を決定している。なお，成績証明書，調査書及び成績通知票等に記載する学業成績は下記の評語を使用している。</p> <p>○本科4，5年</p> <p>100～90点：秀</p> <p>89～80点：優</p> <p>79～70点：良</p> <p>69～60点：可</p> <p>59～0点：不可</p> <p>○専攻科</p> <p>100～80点：優</p> <p>79～70点：良</p> <p>69～60点：可</p> <p>59～0点：不可</p> <p>成績評価基準，単位認定の方法等については，カリキュラムポリシーとしてホームページで広く公表すると共に，全学生に対して配布している学生ガイドブックにも記載して周知している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページ(カリキュラムポリシー)</p> <p>https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定方針（ディプロマポリシー）

教育目標で示した能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得※した学生に対して卒業を認定する。

※ 本科：合計167単位以上，うち一般科目75単位以上，専門科目82単位以上
専攻科：合計62単位以上，うち必修科目21単位，選択科目41単位以上

なお，3月に進級・卒業認定会議（本科），専攻科委員会（専攻科）の議を経て卒業・修了の認定に関する方針を適用した卒業・修了認定を実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ(ディプロマポリシー)

[https://www.matsue-
ct.jp/information/education/three-policies/](https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	松江工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和5年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www2.matsue-ct.jp/jiko/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.niad.ac.jp/evaluation/certification_evaluation/specialized_speci
--

al ty/koutou_hyoukakekka/r_2.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 本科 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ) https://www.matsue-ct.jp/information/education/education-concept/ http://www2.matsue-ct.ac.jp/kyoikujoho/contents/1-2.pdf
(概要) 【教育上の目的】 本校の教育理念に基づく教育の目的は、『学んで創れるエンジニア』の育成である。このスローガンにある『学んで』とは「教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」を意味する。『創れる』とは「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」をもつことを表す。そして、『エンジニア』とは「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」をもつ技術者のことを指す。これらのフレーズの頭文字をとると、『ま・つ・え』の 3 文字が浮かび上がる。 【研究上の目的】 本校の教育上の目的を実現するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。 【機械工学科 教育目的】 機械工学分野の理論、知識および技術を身につけ、“ものづくり”の中核分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/
(概要) 本校では、以下に示す能力・知識を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。 ○全学科共通 G1. 日本語による記述・読解・会話の基礎能力がある。 G2. 歴史・文化・社会に関する基礎知識がある。 G3. 外国語による記述・読解・会話の基礎能力がある。 G4. 自然科学に関する基礎知識がある。 G5. 健全な心身を維持増進するための健康・安全に関する基礎知識と実践能力がある。

G6. 情報機器やコンピュータネットワークを安全に活用するための基礎能力がある。

G7. 環境保全や技術の進化に貢献するための基礎知識がある。

○機械工学科

M1. 機械工学に関する基礎知識がある。

M2. 機械工学に関する機器を取扱い、データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。

M3. 機械システムをデザインするための基礎能力がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、DP 能力を身につけるため、次のような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

(1) 教育課程の編成方針

(a) 中学卒業後という早い段階から専門課程の教育を実施する。このため、理論的な基礎とともに低学年から実験・実習を重視した実践的技術教育を実施する。具体的には、情報リテラシー系科目、各学科の専門分野に関する座学、実験実習科目（専門リテラシー系科目、製図、実験実習、プログラミング、測量学など）を1年生から配置する。また、2年生以上では学年進行で専門科目の開講数を増やし、実践的技術教育を実施する。

(b) 幅広い教養と総合的な判断力を涵養するために、一般教養を含めた体系的な教育課程を編成する。具体的には、1～3年次までは高等学校で学ぶ主要な科目、4年生以上では厳選した科目を配置し、エンジニア（技術者）として必要な一般教養を涵養する。

(c) 教育課程の編成にあたり、適切な学年での科目配置やレベルを検討し、学年を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。具体的には、専門科目を理解するために必要な数学などの履修状況に合わせて、適切な専門科目を各学年に配置する。また、専門学科においてグループで取り組む実験実習系科目を配置する。

(d) DP 能力を深化させるために、卒業研究や創造演習系科目など総合的な能力を駆使して問題解決を行う科目を配置する。

(2) 教育課程の実施方針

(a) DP 能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間系統表等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。

(b) 各科目で到達目標をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする。

(c) 各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外の時間を含めた「学び」を实践させる。

(d) 成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的な評価を実施する。

(3) 成績評価基準

本校では、授業科目の成績評価は各科目のシラバスに基づき以下の方法で行います。

(a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。なお、実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。

(b) 原級留置となった場合、前年度までに履修した科目の単位を認定する。

(c) 1～3年生までは50点以上の成績をもって単位を認定する。4年生以上にあつては、60点以上の成績を持って単位を認定する。

(d) 特別学修として認められた資格を取得した場合、及び放送大学等他大学、高専で開設された授業科目の単位を修得した場合、本校の単位として認定することがある。

(e) 成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス内での席次を決定する。

(f) 成績の評語は次表とする。

1～3年生		4, 5年生	
100～90点	秀	100～90点	秀
89～80点	優	89～80点	優
79～60点	良	79～70点	良
59～50点	可	69～60点	可
49～0点	不可	59～0点	不可

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 学生募集要項

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/admission/>

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/transfer-students/>)

(概要)

本校では、教育目標に掲げている「学ぶ姿勢」、「創る意欲」、「挑戦する意志」を持った「エンジニア」の養成を目指しています。その目標を達成するための資質を備えた次のような学生の入学を期待しています。

- (1)ものづくりに興味がある人
- (2)数学や理科に興味がある人
- (3)こつこつと物事に取り組める人
- (4)人の話がきちんと聞ける人
- (5)自分から行動を起こせる人
- (6)自分の意見がきちんと言える人

★入学者選抜の基本方針

(I) 推薦選抜

中学校若しくは中学校に相当する学校に在籍する生徒で、次の(1)から(3)のすべてに該当し、学校長から推薦された者を対象とし、推薦書、調査書の評価及び面接等を行い、その結果を総合的に判断します。

- (1) 人物が優れていると認められること
- (2) 将来エンジニア(技術者)になろうという意志が強く、その適性を備えていると認められること
- (3) 在学する学校で本校が指定する一定以上の成績を収めていること

(II) 学力選抜

本校が求める資質と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書の評価及び学力検査を行い、その結果を総合的に判断します。

(III) 編入学選抜

高等学校を卒業した者、又は選抜試験を実施する年度の3月に高等学校を卒業見込みの者、若しくは高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められた者を対象とし、面接及び学力検査等を行い、志望する学科の学習に必要な学力、意欲及び適性のある学生を選抜します。

アドミッションポリシーと学力の3要素との対応

学力の3要素	対応する本科アドミッション・ポリシー
(1) 知識・技能	(1)ものづくりに興味がある人 (2) 数学や理科に興味がある人
(2) 思考力・判断力・表現力等の能力	(5)自分から行動を起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人
(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	(3)こつこつと物事に取り組める人 (4)人の話がきちんと聞ける人 (5)自分から行動が起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人

学部等名 本科 電気情報工学科

教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ)

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/education-concept/>

<http://www2.matsue-ct.ac.jp/kyoikujo/contents/1-2.pdf>

(概要)

【教育上の目的】

本校の教育理念に基づく教育の目的は、『学んで創れるエンジニア』の育成である。このスローガンにある『学んで』とは「教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」を意味する。『創れる』と

は「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」をもつことを表す。そして、『エンジニア』とは「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」をもつ技術者のことを指す。これらのフレーズの頭文字をとると、『ま・つ・え』の3文字が浮かび上がる。

【研究上の目的】

本校の教育上の目的を実現するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

【電気情報工学科 教育目的】

電気情報工学分野の理論、知識および技術を身につけ、エネルギー・エレクトロニクス・コンピュータ分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、以下に示す能力・知識を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

○全学科共通

- G1. 日本語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G2. 歴史・文化・社会に関する基礎知識がある。
- G3. 外国語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G4. 自然科学に関する基礎知識がある。
- G5. 健全な心身を維持増進するための健康・安全に関する基礎知識と実践能力がある。
- G6. 情報機器やコンピュータネットワークを安全に活用するための基礎能力がある。
- G7. 環境保全や技術の進化に貢献するための基礎知識がある。

○電気情報工学科

- E1. 電気・電子、情報工学に関する基礎知識がある。
- E2. 電気・電子、情報工学に関する機器を取扱い、データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- E3. 電気情報システムをデザインするための基礎能力がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

(概要)

本校では、DP 能力を身につけるため、次のような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

(1) 教育課程の編成方針

(a) 中学卒業後という早い段階から専門課程の教育を実施する。このため、理論的な基礎とともに低学年から実験・実習を重視した実践的技術教育を実施する。具体的には、情報リテラシー系科目、各学科の専門分野に関する座学、実験実習科目(専門リテラシー系科目、製図、実験実習、プログラミング、測量学など)を1年生から配置する。また、2年生以上では学年進行で専門科目の開講数を増やし、実践的技術教育を実施する。

(b) 幅広い教養と総合的な判断力を涵養するために、一般教養を含めた体系的な教育課程を編成する。具体的には、1～3年次までは高等学校で学ぶ主要な科目、4年生以上では厳選した科目を配置し、エンジニア(技術者)として必要な一般教養を涵養する。

(c) 教育課程の編成にあたり、適切な学年での科目配置やレベルを検討し、学年を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。具体的には、専門科目を理解するために必要な数学などの履修状況に合わせて、適切な専門科目を各学年に配置する。また、専門学科においてグループで取り組む実験実習系科目を配置する。

(d) DP 能力を深化させるために、卒業研究や創造演習系科目など総合的な能力を駆使して問題解決を行う科目を配置する。

(2) 教育課程の実施方針

(a) DP 能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間系統表等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。

(b) 各科目で到達目標をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする。

(c) 各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外の時間を含めた「学び」を実践させる。

(d) 成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的な評価を実施する。

(3) 成績評価基準

本校では、授業科目の成績評価は各科目のシラバスに基づき以下の方法で行います。

(a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況

などを総合して実施する。なお、実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。

(b) 原級留置となった場合、前年度までに履修した科目の単位を認定する。

(c) 1～3年生までは50点以上の成績をもって単位を認定する。4年生以上にあつては、60点以上の成績を持って単位を認定する。

(d) 特別学修として認められた資格を取得した場合、及び放送大学等他大学、高専で開設された授業科目の単位を修得した場合、本校の単位として認定することがある。

(e) 成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス

内での席次を決定する。

(f) 成績の評語は次表とする。

1～3年生		4, 5年生	
100～90点	秀	100～90点	秀
89～80点	優	89～80点	優
79～60点	良	79～70点	良
59～50点	可	69～60点	可
49～0点	不可	59～0点	不可

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 学生募集要項

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/admission/>

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/transfer-students/>)

（概要）

本校では、教育目標に掲げている「学ぶ姿勢」、「創る意欲」、「挑戦する意志」を持った「エンジニア」の養成を目指しています。その目標を達成するための資質を備えた次のような学生の入学を期待しています。

- (1) ものづくりに興味がある人
- (2) 数学や理科に興味がある人
- (3) こつこつと物事に取り組める人
- (4) 人の話がきちんと聞ける人
- (5) 自分から行動を起こせる人
- (6) 自分の意見がきちんと言える人

★入学者選抜の基本方針

(I) 推薦選抜

中学校若しくは中学校に相当する学校に在籍する生徒で、次の(1)から(3)のすべてに該当し、学校長から推薦された者を対象とし、推薦書、調査書の評価及び面接等を行い、その結果を総合的に判断します。

- (1) 人物が優れていると認められること
- (2) 将来エンジニア(技術者)になろうという意志が強く、その適性を備えている

と認められること

(3) 在学する学校で本校が指定する一定以上の成績を収めていること

(II) 学力選抜

本校が求める資質と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書の評価及び学力検査を行い、その結果を総合的に判断します。

(III) 編入学選抜

高等学校を卒業した者、又は選抜試験を実施する年度の3月に高等学校を卒業見込みの者、若しくは高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められた者を対象とし、面接及び学力検査等を行い、志望する学科の学習に必要な学力、意欲及び適性のある学生を選抜します。

アドミッションポリシーと学力の3要素との対応

学力の3要素	対応する本科アドミッション・ポリシー
(1) 知識・技能	(1)ものづくりに興味がある人 (2) 数学や理科に興味がある人
(2) 思考力・判断力・表現力等の能力	(5)自分から行動を起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人
(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	(3)こつこつと物事に取り組める人 (4)人の話がきちんと聞ける人 (5)自分から行動が起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人

学部等名 本科 電子制御工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/education-concept/>

<http://www2.matsue-ct.ac.jp/kyoikujoho/contents/1-2.pdf>

（概要）

【教育上の目的】

本校の教育理念に基づく教育の目的は、『学んで創れるエンジニア』の育成である。このスローガンにある『学んで』とは「教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」を意味する。『創れる』とは「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」をもつことを表す。そして、『エンジニア』とは「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」をもつ技術者のことを指す。これらのフレーズの頭文字をとると、『ま・つ・え』の3文字が浮かび上がる。

【研究上の目的】

本校の教育上の目的を実現するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

【電子制御工学科 教育目的】

電子制御工学分野の理論、知識および技術を身につけ、メカトロニクスやシステム制御などの幅広い分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、以下に示す能力・知識を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

○全学科共通

- G1. 日本語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G2. 歴史・文化・社会に関する基礎知識がある。
- G3. 外国語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G4. 自然科学に関する基礎知識がある。
- G5. 健全な心身を維持増進するための健康・安全に関する基礎知識と実践能力がある。
- G6. 情報機器やコンピュータネットワークを安全に活用するための基礎能力がある。
- G7. 環境保全や技術の進化に貢献するための基礎知識がある。

○電子制御工学科

- D1. 電気・電子分野、機械分野、情報分野の基礎知識がある。
- D2. 電子制御工学に関する機器を取扱い、データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- D3. 電子制御システムをデザインするための基礎能力がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、DP 能力を身につけるため、次のような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

(1) 教育課程の編成方針

- (a) 中学卒業後という早い段階から専門課程の教育を実施する。このため、理論的な基礎とともに低学年から実験・実習を重視した実践的技術教育を実施

する。具体的には、情報リテラシー系科目、各学科の専門分野に関する座学、実験実習科目（専門リテラシー系科目、製図、実験実習、プログラミング、測量学など）を1年生から配置する。また、2年生以上では学年進行で専門科目の開講数を増やし、実践的技術教育を実施する。

(b)幅広い教養と総合的な判断力を涵養するために、一般教養を含めた体系的な教育課程を編成する。具体的には、1～3年次までは高等学校で学ぶ主要な科目、4年生以上では厳選した科目を配置し、エンジニア(技術者)として必要な一般教養を涵養する。

(c)教育課程の編成にあたり、適切な学年での科目配置やレベルを検討し、学年を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。具体的には、専門科目を理解するために必要な数学などの履修状況に合わせて、適切な専門科目を各学年に配置する。また、専門学科においてグループで取り組む実験実習系科目を配置する。

(d)DP能力を深化させるために、卒業研究や創造演習系科目など総合的な能力を駆使して問題解決を行う科目を配置する。

(2) 教育課程の実施方針

(a)DP能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間系統表等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。

(b)各科目で到達目標をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする。

(c)各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外

の時間を含めた「学び」を実践させる。

(d)成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的な評価を実施する。

(3) 成績評価基準

本校では、授業科目の成績評価は各科目のシラバスに基づき以下の方法で行います。

(a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。なお、実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。

(b) 原級留置となった場合、前年度までに履修した科目の単位を認定する。

(c) 1～3年生までは50点以上の成績をもって単位を認定する。4年生以上にあつては、60点以上の成績を持って単位を認定する。

(d) 特別学修として認められた資格を取得した場合、及び放送大学等他大学、高専で開設された授業科目の単位を修得した場合、本校の単位として認定することがある。

(e) 成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス

内での席次を決定する。

(f) 成績の評語は次表とする。

1～3年生		4, 5年生	
100～90点	秀	100～90点	秀
89～80点	優	89～80点	優
79～60点	良	79～70点	良
59～50点	可	69～60点	可
49～0点	不可	59～0点	不可

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 学生募集要項

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/admission/>

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/transfer-students/>)

（概要）

本校では、教育目標に掲げている「学ぶ姿勢」、「創る意欲」、「挑戦する意志」を持った「エンジニア」の養成を目指しています。その目標を達成するための資質を備えた次のような学生の入学を期待しています。

- (1)ものづくりに興味がある人
- (2)数学や理科に興味がある人
- (3)こつこつと物事に取り組める人
- (4)人の話がきちんと聞ける人
- (5)自分から行動を起こせる人
- (6)自分の意見がきちんと言える人

★入学者選抜の基本方針

(I)推薦選抜

中学校若しくは中学校に相当する学校に在籍する生徒で、次の(1)から(3)のすべてに該当し、学校長から推薦された者を対象とし、推薦書、調査書の評価及び面接等を行い、その結果を総合的に判断します。

- (1)人物が優れていると認められること
- (2)将来エンジニア(技術者)になろうという意志が強く、その適性を備えていると認められること
- (3)在学する学校で本校が指定する一定以上の成績を収めていること

(II)学力選抜

本校が求める資質と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書の評価及び学力検査を行い、その結果を総合的に判断します。

(III) 編入学選抜

高等学校を卒業した者、又は選抜試験を実施する年度の3月に高等学校を卒業見込みの者、若しくは高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められた者を対象とし、面接及び学力検査等を行い、志望する学科の学習に必要な学力、意欲及び適性のある学生を選抜します。

アドミッションポリシーと学力の3要素との対応

学力の3要素	対応する本科アドミッション・ポリシー
(1) 知識・技能	(1)ものづくりに興味がある人 (2) 数学や理科に興味がある人
(2) 思考力・判断力・表現力等の能力	(5)自分から行動を起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人
(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	(3)こつこつと物事に取り組める人 (4)人の話がきちんと聞ける人 (5)自分から行動が起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人

学部等名 本科 情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/education-concept/>

<http://www2.matsue-ct.ac.jp/kyoikujoho/contents/1-2.pdf>

（概要）

【教育上の目的】

本校の教育理念に基づく教育の目的は、『学んで創れるエンジニア』の育成である。このスローガンにある『学んで』とは「教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」を意味する。『創れる』とは「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」をもつことを表す。そして、『エンジニア』とは「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」をもつ技術者のことを指す。これらのフレーズの頭文字をとると、『ま・つ・え』の3文字が浮かび上がる。

【研究上の目的】

本校の教育上の目的を実現するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大

学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

【情報工学科 教育目的】

情報工学分野の理論、知識および技術を身につけ、情報化社会の発展に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、以下に示す能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

○全学科共通

- G1. 日本語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G2. 歴史・文化・社会に関する基礎知識がある。
- G3. 外国語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G4. 自然科学に関する基礎知識がある。
- G5. 健全な心身を維持増進するための健康・安全に関する基礎知識と実践能力がある。
- G6. 情報機器やコンピュータネットワークを安全に活用するための基礎能力がある。
- G7. 環境保全や技術の進化に貢献するための基礎知識がある。

○情報工学科

- J1. 情報工学（ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク）に関する基礎知識がある。
- J2. 情報工学に関する機器を取扱い、データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- J3. 情報システムをデザインするための基礎能力がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、DP 能力を身につけるため、次のような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

(1) 教育課程の編成方針

- (a) 中学卒業後という早い段階から専門課程の教育を実施する。このため、理論的な基礎とともに低学年から実験・実習を重視した実践的技術教育を実施する。具体的には、情報リテラシー系科目、各学科の専門分野に関する座学、実験実習科目（専門リテラシー系科目、製図、実験実習、プログラミング、測量学など）を1年生から配置する。また、2年生以上では学年進行で専門科目の開講数を増やし、実践的技術教育を実施する。

(b)幅広い教養と総合的な判断力を涵養するために、一般教養を含めた体系的な教育課程を編成する。具体的には、1～3年次までは高等学校で学ぶ主要な科目、4年生以上では厳選した科目を配置し、エンジニア(技術者)として必要な一般教養を涵養する。

(c)教育課程の編成にあたり、適切な学年での科目配置やレベルを検討し、学年を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。具体的には、専門科目を理解するために必要な数学などの履修状況に合わせて、適切な専門科目を各学年に配置する。また、専門学科においてグループで取り組む実験実習系科目を配置する。

(d)DP 能力を深化させるために、卒業研究や創造演習系科目など総合的な能力を駆使して問題解決を行う科目を配置する。

(2)教育課程の実施方針

(a)DP 能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間系統表等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。

(b)各科目で到達目標をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする。

(c)各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外

の時間を含めた「学び」を実践させる。

(d)成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的な評価を実施する。

(3)成績評価基準

本校では、授業科目の成績評価は各科目のシラバスに基づき以下の方法で行います。

(a)成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。なお、実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。

(b)原級留置となった場合、前年度までに履修した科目の単位を認定する。

(c)1～3年生までは50点以上の成績をもって単位を認定する。4年生以上にあつては、60点以上の成績を持って単位を認定する。

(d)特別学修として認められた資格を取得した場合、及び放送大学等他大学、高専で開設された授業科目の単位を修得した場合、本校の単位として認定することがある。

(e)成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス

内での席次を決定する。

(f) 成績の評語は次表とする。

1～3年生		4, 5年生	
100～90点	秀	100～90点	秀
89～80点	優	89～80点	優
79～60点	良	79～70点	良
59～50点	可	69～60点	可
49～0点	不可	59～0点	不可

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 学生募集要項

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/admission/>

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/transfer-students/>)

（概要）

本校では、教育目標に掲げている「学ぶ姿勢」、「創る意欲」、「挑戦する意志」を持った「エンジニア」の養成を目指しています。その目標を達成するための資質を備えた次のような学生の入学を期待しています。

- (1)ものづくりに興味がある人
- (2)数学や理科に興味がある人
- (3)こつこつと物事に取り組める人
- (4)人の話がきちんと聞ける人
- (5)自分から行動を起こせる人
- (6)自分の意見がきちんと言える人

★入学者選抜の基本方針

(I)推薦選抜

中学校若しくは中学校に相当する学校に在籍する生徒で、次の(1)から(3)のすべてに該当し、学校長から推薦された者を対象とし、推薦書、調査書の評価及び面接等を行い、その結果を総合的に判断します。

- (1)人物が優れていると認められること
- (2)将来エンジニア(技術者)になろうという意志が強く、その適性を備えていると認められること
- (3)在学する学校で本校が指定する一定以上の成績を収めていること

(II)学力選抜

本校が求める資質と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書の評価及び学力検査を行い、その結果を総合的に判断します。

(III)編入学選抜

高等学校を卒業した者、又は選抜試験を実施する年度の3月に高等学校を卒業見込みの者、若しくは高等学校卒業者と同等以上の学力があると認

められた者を対象とし、面接及び学力検査等を行い、志望する学科の学習に必要な学力、意欲及び適性のある学生を選抜します。

アドミッションポリシーと学力の3要素との対応

学力の3要素	対応する本科アドミッション・ポリシー
(1)知識・技能	(1)ものづくりに興味がある人 (2) 数学や理科に興味がある人
(2)思考力・判断力・表現力等の能力	(5)自分から行動を起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人
(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	(3)こつこつと物事に取り組める人 (4)人の話がきちんと聞ける人 (5)自分から行動が起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人

学部等名 本科 環境・建設工学科

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/education-concept/>

<http://www2.matsue-ct.ac.jp/kyoikujoho/contents/1-2.pdf>

（概要）

【教育上の目的】

本校の教育理念に基づく教育の目的は、『学んで創れるエンジニア』の育成である。このスローガンにある『学んで』とは「教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」を意味する。『創れる』とは「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」をもつことを表す。そして、『エンジニア』とは「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」をもつ技術者のことを指す。これらのフレーズの頭文字をとると、『ま・つ・え』の3文字が浮かび上がる。

【研究上の目的】

本校の教育上の目的を実現するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

【環境・建設工学科 教育目的】

環境・建設工学分野の理論、知識および技術を身につけ、様々な社会基盤整備分野に貢献できる実践的な技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、以下に示す能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

○全学科共通

- G1. 日本語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G2. 歴史・文化・社会に関する基礎知識がある。
- G3. 外国語による記述・読解・会話の基礎能力がある。
- G4. 自然科学に関する基礎知識がある。
- G5. 健全な心身を維持増進するための健康・安全に関する基礎知識と実践能力がある。
- G6. 情報機器やコンピュータネットワークを安全に活用するための基礎能力がある。
- G7. 環境保全や技術の進化に貢献するための基礎知識がある。

○環境・建設工学科

- C1. 環境工学、建設工学に関する基礎知識がある。
- C2. 環境工学、建設工学に関する機器を取扱い、データを収集・解析・考察するための基礎能力がある。
- C3. 環境・建設システムをデザインするための基礎能力がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

本校では、DP 能力を身につけるため、次のような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

(1) 教育課程の編成方針

(a) 中学卒業後という早い段階から専門課程の教育を実施する。このため、理論的な基礎とともに低学年から実験・実習を重視した実践的技術教育を実施する。具体的には、情報リテラシー系科目、各学科の専門分野に関する座学、実験実習科目（専門リテラシー系科目、製図、実験実習、プログラミング、測量学など）を1年生から配置する。また、2年生以上では学年進行で専門科目の開講数を増やし、実践的技術教育を実施する。

(b) 幅広い教養と総合的な判断力を涵養するために、一般教養を含めた体系的な教育課程を編成する。具体的には、1～3年次までは高等学校で学ぶ主要な科目、4年生以上では厳選した科目を配置し、エンジニア（技術者）として必要な一般教養を涵養する。

(c) 教育課程の編成にあたり、適切な学年での科目配置やレベルを検討し、学年を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。具体的には、専門科目を理解するために必要な数学などの履修状況に合わせて、

適切な専門科目を各学年に配置する。また、専門学科においてグループで取り組む実験実習系科目を配置する。

(d)DP 能力を深化させるために、卒業研究や創造演習系科目など総合的な能力を駆使して問題解決を行う科目を配置する。

(2) 教育課程の実施方針

(a)DP 能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間系統表等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。

(b)各科目で到達目標をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする。

(c)各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外

の時間を含めた「学び」を实践させる。

(d)成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的な評価を実施する。

(3) 成績評価基準

本校では、授業科目の成績評価は各科目のシラバスに基づき以下の方法で行います。

(a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。なお、実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。

(b) 原級留置となった場合、前年度までに履修した科目の単位を認定する。

(c) 1～3年生までは50点以上の成績をもって単位を認定する。4年生以上にあっては、60点以上の成績を持って単位を認定する。

(d) 特別学修として認められた資格を取得した場合、及び放送大学等他大学、高専で開設された授業科目の単位を修得した場合、本校の単位として認定することがある。

(e) 成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス

内での席次を決定する。

(f) 成績の評語は次表とする。

1～3年生		4, 5年生	
100～90点	秀	100～90点	秀
89～80点	優	89～80点	優
79～60点	良	79～70点	良
59～50点	可	69～60点	可

49～0点	不可	59～0点	不可
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： 学生募集要項 https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/admission/ https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/transfer-students/)</p>			
<p>(概要) 本校では、教育目標に掲げている「学ぶ姿勢」、「創る意欲」、「挑戦する意志」を持った「エンジニア」の養成を目指しています。その目標を達成するための資質を備えた次のような学生の入学を期待しています。</p> <p>(1)ものづくりに興味がある人 (2)数学や理科に興味がある人 (3)こつこつと物事に取り組める人 (4)人の話がきちんと聞ける人 (5)自分から行動を起こせる人 (6)自分の意見がきちんと言える人</p> <p>★入学者選抜の基本方針</p> <p>(I)推薦選抜 中学校若しくは中学校に相当する学校に在籍する生徒で、次の(1)から(3)のすべてに該当し、学校長から推薦された者を対象とし、推薦書、調査書の評価及び面接等を行い、その結果を総合的に判断します。</p> <p>(1)人物が優れていると認められること (2)将来エンジニア(技術者)になろうという意志が強く、その適性を備えていると認められること (3)在学する学校で本校が指定する一定以上の成績を収めていること</p> <p>(II)学力選抜 本校が求める資質と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書の評価及び学力検査を行い、その結果を総合的に判断します。</p> <p>(III)編入学選抜 高等学校を卒業した者、又は選抜試験を実施する年度の3月に高等学校を卒業見込みの者、若しくは高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められた者を対象とし、面接及び学力検査等を行い、志望する学科の学習に必要な学力、意欲及び適性のある学生を選抜します。</p> <p style="text-align: center;">アドミッションポリシーと学力の3要素との対応</p>			
学力の3要素		対応する本科アドミッション・ポリシー	
(1)知識・技能		(1)ものづくりに興味がある人	
		(2) 数学や理科に興味がある人	

(2) 思考力・判断力・表現力等の能力	(5) 自分から行動を起こせる人 (6) 自分の意見がきちんと言える人
(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	(3) こつこつと物事に取り組める人 (4) 人の話がきちんと聞ける人 (5) 自分から行動が起こせる人 (6) 自分の意見がきちんと言える人

<p>学部等名 専攻科 生産・建設システム工学専攻</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.matsue-ct.jp/information/education/education-concept/</p> <p>http://www2.matsue-ct.ac.jp/kyoikujoho/contents/1-2.pdf</p>
<p>(概要)</p> <p>【教育上の目的】</p> <p>本校の教育理念に基づく教育の目的は、『学んで創れるエンジニア』の育成である。このスローガンにある『学んで』とは「教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」を意味する。『創れる』とは「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」をもつことを表す。そして、『エンジニア』とは「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」をもつ技術者のことを指す。これらのフレーズの頭文字をとると、『ま・つ・え』の3文字が浮かび上がる。</p> <p>【研究上の目的】</p> <p>本校の教育上の目的を実現するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。</p> <p>【生産・建設システム工学専攻 教育目的】</p> <p>機械工学分野又は環境・建設工学分野のより高度な理論、知識および技術を身につけ、当該分野やその境界・融合領域での問題発見・解決能力および創造性を持つ技術者の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/</p>

(概要)

専攻科では、以下に示す能力・知識を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

○生産・建設システム工学専攻

P1. 機械工学、環境・建設工学いずれかの分野を基礎として、他の分野を融合した境界領域の知識がある。

P2. 技術者としての企画、提案、解決能力がある。

P3. 技術者としてのコミュニケーション能力、倫理観、社会知識がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

(概要)

専攻科では、DP能力を身につけるため、つぎのような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

(1) 教育課程の編成方針

(a) 研究や演習・実習等において、ものづくりや本科の科目と連携した科目を配置し、本科で得た知見を応用し研究・開発能力を涵養する教育課程を編成する。

(b) 教育課程の編成にあたり、学科を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。

(c) DP能力を深化させるために、先進的なエンジニアリングデザイン教育を取り入れ総合的な能力を駆使する科目を実施する。

(2) 教育課程の実施方針

(a) DP能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間連携図等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。

(b) 各科目で評価基準をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする。

(c) 各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外の時間を含めた「学び」を実践させる。

(d) 成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的に評価を実施する。

(3) 成績評価基準

専攻科では、成績評価は各科目のシラバスに沿った方法で行う。

(a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。

(b) 実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。

(c) 60点以上の成績をもって単位を認定する。

(d) 成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス内での席次を決定する。

(e) 成績の評語は次の通りとする。

- 100～80点 優
- 79～70点 良
- 69～60点 可
- 59～0点 不可

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生募集要項

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/admission-to-major-courses/>

https://drive.google.com/file/d/1U2KsxK-rqQ2DMBmke7_hrje1L2FW52v8/view

（概要）

科学技術の高度化が進む中、産業界における技術革新と国際化に対応するために、本校専攻科では、「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」を教育理念として定め、研究開発能力、専門知識、職業倫理、国際性を身につけることを目指しています。その目標を達成するための資質を備えた、「基礎学習能力があり、専門的技術開発に意欲を有する」学生の入学を期待しています。

入学者選抜の基本方針

（I）推薦選抜

次の各号に該当し、専門的技術開発への意欲がある者で、在学高等専門学校長（本校の場合は所属する学科の学科長）の推薦を受けた者を面接、学力検査等によって選抜します。

- （1） 選抜試験の実施年度の3月に高等専門学校を卒業見込みの者
- （2） 学業成績及び人物が優れていると認められる者
- （3） 本校に合格した場合、確実に入学する意思がある者

（II）学力選抜

高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行います。

（III）社会人特別選抜

出願時に社会人の経験を1年以上有する者で、高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行います。

（IV）A0 特別選抜

技術的な作品や取り組み、あるいは技術的な開発経験を有する者で、高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれら

の学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行います。

学部等名 専攻科 電子情報システム工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/education-concept/>

<http://www2.matsue-ct.ac.jp/kyoikujoho/contents/1-2.pdf>

（概要）

【教育上の目的】

本校の教育理念に基づく教育の目的は、『学んで創れるエンジニア』の育成である。このスローガンにある『学んで』とは「教養、対話力、技術の基礎を身に付け、自己を向上させようとする姿勢」を意味する。『創れる』とは「さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲」をもつことを表す。そして、『エンジニア』とは「世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志」をもつ技術者のことを指す。これらのフレーズの頭文字をとると、『ま・つ・え』の3文字が浮かび上がる。

【研究上の目的】

本校の教育上の目的を実現するため、社会や産業構造の変化、技術の進歩等を踏まえ、教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させることが重要である。このため、各教員はファカルティ・デベロップメントなどの研修や国内外の学会等への参加、高等専門学校内での研究ないしは、国内外の大学・研究機関・企業等との共同による研究実施などにより、最新の教育・研究動向を把握し、かつ、自らの教育力の継続的な向上につとめる。

【電子情報システム工学専攻 教育目的】

電気工学分野、電子制御工学分野又は情報工学分野のより高度な理論、知識および技術を身につけ、当該分野やその境界・融合領域での問題発見・解決能力および創造性を持つ技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）

<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

専攻科では、以下に示す能力・知識を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

○電子情報システム工学専攻

S1. 電気・電子工学、制御工学、情報工学いずれかの分野を基礎として、他の分野を融合した境界領域の知識がある。

- S2. 技術者としての企画、提案、解決能力がある。
- S3. 技術者としてのコミュニケーション能力、倫理観、社会知識がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）
<https://www.matsue-ct.jp/information/education/three-policies/>

（概要）

専攻科では、DP能力を身につけるため、つぎのような編成方針、実施方針、成績評価基準に基づいた教育を行う。

(1) 教育課程の編成方針

- (a) 研究や演習・実習等において、ものづくりや本科の科目と連携した科目を配置し、本科で得た知見を応用し研究・開発能力を涵養する教育課程を編成する。
- (b) 教育課程の編成にあたり、学科を超えた科目間連携にも配慮した授業内容や授業計画を設計する。
- (c) DP能力を深化させるために、先進的なエンジニアリングデザイン教育を取り入れ総合的な能力を駆使する科目を実施する。

(2) 教育課程の実施方針

- (a) DP能力が教育課程の中でどのように反映されているのかをシラバス、科目間連携図等によって学生に明示し、学生が履修計画を立てやすいように配慮する。
- (b) 各科目で評価基準をシラバス上で明確にし、学生が到達すべきレベルを明らかにする。
- (c) 各科目の授業で学生の能動的な参加を促す工夫を行い、予習・復習など授業時間以外の時間を含めた「学び」を实践させる。
- (d) 成績評価を各科目でシラバスに明記した評価基準に沿って公正に行い、その成績評価に用いた成績資料の80%を保管する。また、その正当性を教員の相互チェックにより確認する。さらに、機関別認証評価などの第三者評価によって客観的に評価を実施する。

(3) 成績評価基準

専攻科では、成績評価は各科目のシラバスに沿った方法で行う。

- (a) 成績評価は、定期試験の成績、小テスト、レポート等の提出物、履修状況などを総合して実施する。
- (b) 実験実習、演習等の科目では定期試験を実施せず、履修状況や提出物等により評価することがある。
- (c) 60点以上の成績をもって単位を認定する。
- (d) 成績評価の客観的な指標として、科目の単位数で重み付けを行った平均点を算出しクラス内での席次を決定する。

(e) 成績の評語は次の通りとする。

- 100～80点 優
- 79～70点 良
- 69～60点 可
- 59～0点 不可

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 学生募集要項

<https://www.matsue-ct.jp/admissions-info/admission-to-major-courses/>

https://drive.google.com/file/d/1U2KsxK-rqQ2DMBMke7_hrje1L2FW52v8/view

（概要）

科学技術の高度化が進む中、産業界における技術革新と国際化に対応するために、本校専攻科では、「創造性と実践的技術力を兼ね備えた国際的エンジニア」を教育理念として定め、研究開発能力、専門知識、職業倫理、国際性を身につけることを目指しています。その目標を達成するための資質を備えた、「基礎学習能力があり、専門的技術開発に意欲を有する」学生の入学を期待しています。

入学者選抜の基本方針

（I）推薦選抜

次の各号に該当し、専門的技術開発への意欲がある者で、在学高等専門学校長（本校の場合は所属する学科の学科長）の推薦を受けた者を面接、学力検査等によって選抜します。

- （1） 選抜試験の実施年度の3月に高等専門学校を卒業見込みの者
- （2） 学業成績及び人物が優れていると認められる者
- （3） 本校に合格した場合、確実に入学する意思がある者

（II）学力選抜

高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行います。

（III）社会人特別選抜

出願時に社会人の経験を1年以上有する者で、高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対して、面接、学力検査等を行って選抜を行います。

（IV）A0 特別選抜

技術的な作品や取り組み、あるいは技術的な開発経験を有する者で、高等専門学校、短期大学、専修学校に相当する学校を卒業した者、またはそれらの学校で選抜試験を実施する年度の3月に卒業見込みの者、その他高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると専攻科が認めた者に対し

て、面接、学力検査等を行って選抜を行います。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ

<https://www.matsue-ct.jp/information/outline/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
人文科学科	—	3人	4人	4人	2人	0人	13人
数理科学科	—	4人	3人	2人	0人	0人	9人
機械工学科	—	5人	2人	3人	0人	0人	10人
電気情報工学科	—	5人	3人	2人	0人	0人	10人
電子制御工学科	—	3人	3人	2人	0人	0人	8人
情報工学科	—	5人	3人	0人	2人	0人	10人
環境・建設工学科	—	4人	3人	0人	1人	0人	8人
生産・建設システム工学 専攻	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
電子情報システム工学 専攻	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
—		25人					25人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://www.matsue-ct.jp/information/outline/faculty-list/						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>令和4年度は新任教員に対する研修会を年4回にわたり実施し、シラバスの書き方、授業を進める上での注意点、第三者評価資料の作成・チェック方法、教員としてのキャリアアップについて、定期試験に対する準備、遠隔授業の進め方、担任業務などについて研修を行った。</p> <p>また、高等専門学校の高度化・国際化に対応するため、教職員の語学力向上を目的とした英会話研修を実施し、14名が受講した。さらには学校主催のFD/SD研修と「令和4年度中国地区国立高等専門学校教員研修」併せた研修会を実施し、学校内外を含めた59名の教職員が受講した。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	42人	105.0%	200人	197人	98.5%	若干名	0人
電気情報工学科	40人	40人	100.0%	200人	188人	94.0%	若干名	2人
電子制御工学科	40人	41人	102.5%	200人	198人	99.0%	若干名	1人
情報工学科	40人	41人	102.5%	200人	205人	103.0%	若干名	3人
環境・建設工学科	40人	40人	100.0%	200人	201人	101.0%	若干名	1人
合計	200人	204人	102.0%	1000人	989人	98.9%	人	7人

生産・建設システム工学専攻	8人	13人	162.5%	16人	26人	162.5%	人	人
電子情報システム工学専攻	12人	21人	175.0%	24人	48人	200.0%	人	人
合計	20人	34人	170.0%	40人	74人	185.0%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	35人 (100%)	12人 (34.3%)	22人 (62.9%)	1人 (2.8%)
電気情報工学科	30人 (100%)	12人 (40.0%)	18人 (60.0%)	0人 (0%)
電子制御工学科	41人 (100%)	23人 (56.1%)	17人 (41.5%)	1人 (2.4%)
情報工学科	35人 (100%)	20人 (57.1%)	15人 (42.9%)	0人 (0%)
環境・建設工学科	42人 (100%)	14人 (33.3%)	28人 (66.7%)	0人 (0%)
生産・建設システム工学専攻	16人 (100%)	4人 (25.0%)	12人 (75.0%)	0人 (0%)
電子情報システム工学専攻	17人 (100%)	4人 (23.5%)	13人 (76.5%)	0人 (0%)
合計	216人 (100%)	89人 (41.2%)	125人 (57.9%)	2人 (0.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
https://www.matsue-ct.jp/prospective-students/after-college/				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本校では、教務委員会及び授業合同ワーキンググループで確認の上、令和5年度のシラバス作成、公表を下記の日程で実施した。</p> <p>【令和5年度授業計画の作成公表スケジュール】</p> <p>授業担当教員，教室等を記した年間授業計画書の作成・提出：R05年1月20日（金）</p> <p>シラバス作成，Webシラバスシステムへの入力：R05年1月31日（火）</p> <p>シラバス公表：R05年4月3日（月）（高専機構本部Webシラバス公開）</p> <p style="padding-left: 40px;">R05年4月7日（金）（学内独自システムによるシラバス公開）</p> <p>以上の作業によって公表されたシラバスに基づいて，学生は新年度に向けた履修登録をR05年4月7日（金）～24日（月）の期間で行った。なお，本科シラバスは高専機構本部Webシラバスシステム，専攻科シラバスについては学内独自システムによって学外にも公表している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本校ではGPA評価は導入しておらず，成績は100点満点による評価を実施している。また，科目の単位数の重みづけを行った平均点によってクラス内の席次を決定している。なお，成績証明書，調査書及び成績通知票等に記載する学業成績は下記の評語を使用している。</p> <p>○本科4，5年</p> <p>100～90点：秀</p> <p>89～80点：優</p> <p>79～70点：良</p> <p>69～60点：可</p> <p>59～ 0点：不可</p> <p>○専攻科</p> <p>100～80点：優</p> <p>79～70点：良</p> <p>69～60点：可</p>
--

59～0点：不可 成績評価基準，単位認定の方法等については，カリキュラムポリシーとしてホームページで広く公表すると共に，全学生に対して配布している学生ガイドブックにも記載して周知している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
本科	機械工学科	167 単位	無	単位
	電気情報工学科			
	電子制御工学科			
	情報工学科			
	環境・建設工学科			
専攻科	生産・建設システム工学専攻	62 単位	無	単位
	電子情報システム工学専攻			
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.matsue-ct.jp/disclosure-of-info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
本科	機械工学科	234,600円	84,600円	90,600円 ～242,200円	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興センター共済掛金 1,550円 ・教科書代 約31,000円 ・学用品代 約5,000円～32,000円 ・後援会費 43,000円 ・後援会入会金 10,000円 ・寄宿料 (寮生のみ) 8,400円～9,600円 ・寮生会費 (寮生のみ) 5,000円 ・寮後援会費 (寮生のみ) 110,000円
	電気情報工学科				
	電子制御工学科				
	情報工学科				
環境・建設工学科					
専攻科	生産・建設システム工学専攻				
	電子情報システム工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>特に低学年の学習支援のために、学習支援WG(ワーキンググループ)を設けて、学びを共有できる場・先輩とのコミュニケーションの場としての「学習支援室」を運営している。特に修学支援を必要とする学生に対しては、担任・学年会・学生相談室が連携して「個別支援Teaching Assistant制度」を運用し、学習支援にあたっている。</p> <p>【キャリア教育情報/学習支援室】</p> <p>https://www.matsue-ct.jp/current-students/career-education-info/</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>教務部にキャリア支援室を設け、学生の自己啓発・キャリア形成を目的として、進路情報を提供し、各学年会と連携して「学習方法」「キャリアを考える」「企業との交流会」「インターンシップ準備講座・報告会」その他各種講演会を実施している。また、学科長・アドバイザーとの面談、保護者も交えた三者面談などで、学生の進路選択をサポートしている。</p> <p>【キャリア教育情報/キャリア支援室】</p> <p>https://www.matsue-ct.jp/current-students/career-education-info/</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要) 保健室および学生相談室が隣接しており、心と身体の両面の不調や悩みに迅速に対応できる環境を整えている。看護師が窓口となって学生に対応し、状況によって学内相談員(教員9名)やカウンセラー(2名、毎週来校)・精神科医(毎月来校)・スクールソーシャルワーカー(1名・毎月来校)との面談につなげている。また、合理的配慮が必要と判断された学生に</p>

対しては個別支援員会で支援内容を検討し、個別支援 WG を立ち上げ対応している。必要に応じて外部機関である「島根県東部発達障害者支援センター」「松江市内特別支援学校相談ネットワーク」等とも連携している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ

<https://www.matsue-ct.jp/disclosure-of-info/>